

こうじ 工事の げんば 現場より

浪華の間

芦雁図

琴棋書画の間

繫の間

花鳥の間

彫刻欄間
(波)

瀟湘の間

蓮の茎の戸

第一屋

水屋

台子の間

鶴の間

こうじ げんば りんしゅんかく とくべつしゅっちょう
工事現場の臨春閣から特別出張!

企画展特別 ver.

vol.2 第一屋・第二屋



第一屋 欄間彫刻 (波)

今は真っ黒けな欄間彫刻、実はこれは銀が酸化したもの。作られた当初は、波しぶきが立つような鋭い煌めきを見ることが出来ていたのかもしれませんが。銀以外にも一部の波に青、松の部分に緑が塗られ、これらは褪色・劣化はしていますが現在でも名残を見ることが出来ます。

この彫刻は下絵を桃田柳栄が描いたと伝えられています。桃田柳栄は江戸前期の狩野派の絵師で、京都国立博物館所蔵の重要文化財「狩野探幽像」の作者と目されている、探幽門下の四天王の一人に数えられる人物です。

第一屋 蓮の茎の戸

蓮の枯れ茎を使った戸、修理前は蓮の茎が折れたり割れたりしてしまっていました。修理に用いた蓮の茎は、職人さんが事前に別の箇所でも夏の内に蓮の茎を採集して用意しておいたのですが、乾燥して細くなりすぎてしまい使えなくなっていました。そこで、今回の修理材料には三溪園の蓮池から新たに材料を採集しています。

建具修理歴の長い職人さんでも、こんな材料を使うのは初めて。試行錯誤して修理をしてくれました。



修理前の様子



左：修理用に採集した蓮茎

中：事前に採集した蓮茎



三溪園の蓮池からの材料採集 (2020年1月16日)

右：元の材料

職人さんのヒトコト

胴長を着て蓮池に入るなんて初めての体験でした。園内で採集した材料は建物の環境に相応しいものですので、その材料を使って建具を直すことができましたということが嬉しかったです。

中商株式会社 代表取締役
中嶋英貴さん

第二屋 芦雁図 (実物/コロタイプ印刷)

さて、どっちが実物・どっちがコロタイプ複製でしょうか？！

実はコロタイプ複製を作成する際に、「純粋なコピー」ではなく「劣化が進む以前の姿≒原三溪さんが見ていた当時の姿」を復元するように複製を作ったのです。さらに印刷したものの上から、本職の日本画家による補彩や補筆が施されたため、さらに絵画としての精度が上がっています。最近「目利きに自信がある」と豪語した某・日本画家が、このコロタイプ複製に騙された、、、なんてエピソードも。

コロタイプ印刷による複製には、
100年以上の長い歴史があります。
詳しくはパンフレットをご覧ください！

